

明日も元気で来いよ！

102

7日は立冬でした。朝夕は、コート姿が目立つようになり、そろそろ炬燵やストーブが恋しくなりました。暦通り、秋は、駆け足で過ぎていきそうな気配です。

「学芸会 お楽しみに」



20日の学芸会まで、二週間を切りました。

どの学年も、練習に熱が入ってきました。子どもたちの声に張りが出てきて、動きが大きくなりました。本番が楽しみです。

劇や合唱、合奏は、ジグソーパズルのピースと同じです。どのピースが欠けても作品は、完成しません。みんなが自分の役割と責任をきちんと果たして、素晴らしい作品を創りあげてくれると信じています。

前号で「ウコン色」（「鬱金色」）について紹介しました。今号でも、色について最近知ったことを紹介します。

「捨て色」 = 「なくてはならない色」

「捨て色」とは、色彩学の用語で、ある色をひととき鮮やかに見せたり、より効果的に印象づけたりするために使う、目立たない色のことです。・・・すべての色が、自己主張をしていては、互いのよさを消してしまいます。どんな世界でも、それぞれの性格や特徴にあった役割分担があるのです。・・・捨て色は、・・・とっても必要な色。なくてはならない色なのです。

（参考： 山下景子 著 「美人の日本語」 幻冬舎）

「捨てる」という言葉の印象がよくないので、教育の世界では、「捨て色」という言葉は、あまり使いません。でも、「目立たないけれど、なくてはならない役割」、「どんな世界でも、それぞれの性格や特徴にあった大事な役割がある」といった意味については、教育の世界でも、おおいに通じるものがあります。

学芸会での子どもたちの役割分担について、ジグソーパズルのピースを例にあげました。これも同じです。

一人一人の個性が、そして、持ち味が、輝く学芸会にしたいと願っています。

皆様も、どうぞ お楽しみに。当日は、温かな拍手とご声援をお願いします。

「校長先生 通算100号 おめでとうございます」part2

「明日も元気で来いよ」が、通算100号を迎えたことについて、18号でお知らせした以外にも、まだまだたくさんのうれしいことがありました。スペースの関係で紹介できなかったものを今号でお知らせします

ある保護者の方は、子どもの連絡帳に、左のような見出しを添えて、次のように書いてくださいました。



毎号楽しみにしています。学校へ行くときは、玄関の飾りも欠かさずチェックしています。校長先生がいつも子どもたちを身近で見てくださいていることをありがたく思います。

私も引き続き、西天満小の子どものために自分のできることを精一杯やっています。 (保護者Y様)

また、3年生のMさんは、10月13日の「たくましく・・・」にこんなことを書いてくれました。

百号

今日は、「明日も元気で来いよ」の百号記念です。百号には、こんなことが書かれていました。「教育は、植物を育てることになている」と。ひりょうをやり、たねをまき、水をやる。気温、日当たり、風の強さ、いろんなことが書かれていました。(い下しょうりやく) かんどうすることが、いっぱいかかれてありました。

このようにほめてもらえて、とてもうれしいです。そして、また続けて発行しようという意欲がわいてきます。年を重ねた大人の私でも、ほめてもらえることが、こんなにうれしいのです。そして、意欲や元気がでてくるのです。

「ほめて育てる」ということが、よく言われます。人を育てることの原点は、ほめることだと、あらためて感じました。ほめられることで、自信をもち、意欲がわいてくる。自信と意欲をもって取り組んだことは、人からほめられます。子どもだけでなく、大人も含めてみなさんの周りにほめ言葉があふれ、このサイクルがどんどん循環してほしい。そして、みんな笑顔になり、自信や意欲をもって生活できることを願っています。

